

1. 西宮歴史資料写真展について

これまでの西宮歴史資料写真展は、第1回～第5回までは「西宮の風物」、第6回～第17回までは「西宮という街」をテーマに、毎回40点ほどの写真を展示し、関連する写真データ約1万2千点を歴史資料チーム（東館8階）で公開している。このたび、テーマを再構成し、約240点を展示する。

<写真展の構成>

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 西宮その昔 | 9. 寒天・竹かご・名塩紙 |
| 2. 道の宮 | 10. くらしの風景 市場 |
| 3. 夙川公園 | 11. 航空写真 |
| 4. 海辺とプール | 12. 風景点描 |
| 5. 甲子園球場と阪神パーク | 13. こども |
| 6. 山のレジャー | 14. 神社とまつり |
| 7. 製造業 | 15. 地図 |
| 8. 酒都にしのみや | |

2. 写真展及び写真集「西宮という街」について

西宮は海、山、川など自然に恵まれる一方、交通至便でもあり、住み心地のよい街として今も人気が高い。

「甲山」は西宮のシンボルである。昭和13年と22年の山火事で山頂東側が焼野原となりその姿を懐かしむ人も多い。そのふもとのピクニックセンター（写真①）で、キャンプをはじめちよっとしたハイキングを楽しむことができた。

「摂津名所図会」にあるように、西宮の海岸は「御前浜」と呼ばれ漁業も盛んだった。とれたてのイワシを湯がいて浜辺で天日干しをする「宮じゃこ」の風景（写真②③）は、海水浴とともに人々の記憶に残っていると思われる。

夙川公園が整備されたのは昭和12年であるが、それ以前から香櫨園遊園地、香櫨園海水浴場、甲陽遊園地、苦楽園温泉などの開発、それに伴う別荘地の開発により、西宮は酒造、漁業の町から近代的な町へと様相を変えていく。そこには鉄道や道路の開通が大きな役割を果たしている。大正14年に市制を施行した西宮はこれにより大きく発展していくことになる。人々の生活にもモダンな雰囲気が垣間見える（写真④）。

モダニズムは夙川の周辺からはじまる。その頃からバス通りであった夙川左岸を遊歩道としたのは昭和46年（写真⑤）。四季折々の顔を見せ、いこいの場として今も人々に親しまれている。

高層ビルも建ち並び、市制施行時の90年前とは想像もできないほど街並みは変わっているが、海も山も川も安らぎの場として人々の隣にある。西宮市の財産といえるだろう。

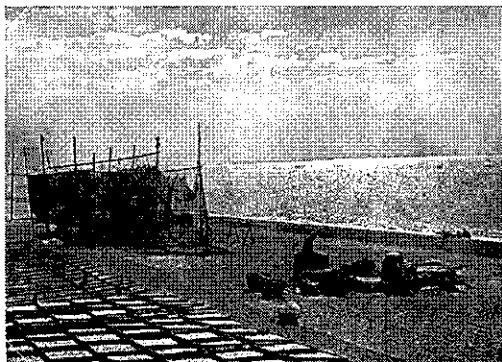
これらの写真は、懐かしさとともに、思い出されること、忘れていたこと、新たに気づくことなどもあるのではないかと思われる。ご家族の皆さままでご覧いただき語り合ってください機会になれば幸いとする。歴史資料チームでは、市民の方々のそのような話も、できるだけ記録していきたい。また、引き続き写真展を企画する予定であり、ぜひ気軽に足を運んでいただきたい。



写真① (写真展：山のレジャー・写真集 72 頁)

昭和 45 年頃

仁川ピクニックセンター広川原



写真② (写真展：風景点描)

昭和 28 年

御前浜の宮じゃこ



写真③ (写真集 15 頁)

昭和 30 年

宮じゃこ天日干し



写真④ (写真展：くらしの風景 市場)

昭和 9 年

栄通り (現中央商店街やなぎ通) のにぎわい

*写真集では、13 頁に昭和 9 年の画像掲載



写真⑤ (写真展：夙川公園、写真集 60 頁)

昭和 46 年

夙川公園オアシスロード開設